

令和7年2月

保護者様

京都市立南大内小学校
校長 皆川 真有美

令和6年度 学校評価アンケート<後期>

平素より本校教育推進に多大なご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

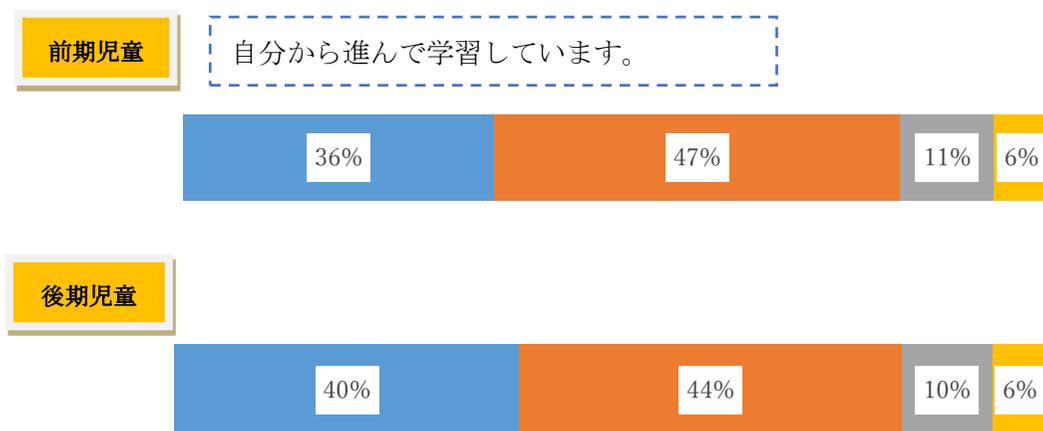
さて、12月に実施しました学校評価アンケートの結果についてお伝えします。アンケートの数値と子どもたちの様子や保護者の皆様のご意見をもとに、計画・実行・点検・検証（PDCA）のサイクルで学校教育の充実と向上を図りたいと考えております。

*グラフの項目、左より 「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」

1 「確かな学力」の育成に向けて

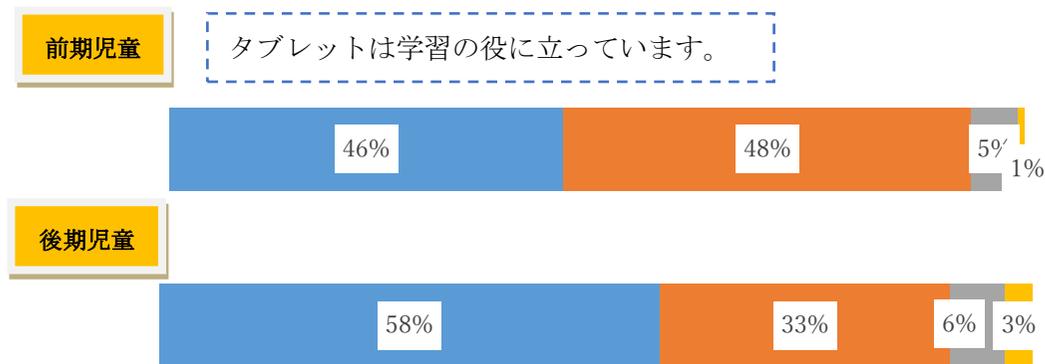
本校の学校教育目標の中に、『自らを高める』とあります。本校では子どもたちが「主体的に学ぶこと」を実現し、自らを高めることができる資質・能力を育てることを目指しています。

『自らを高める』を実践できているか以下のアンケート項目の結果をご覧ください。



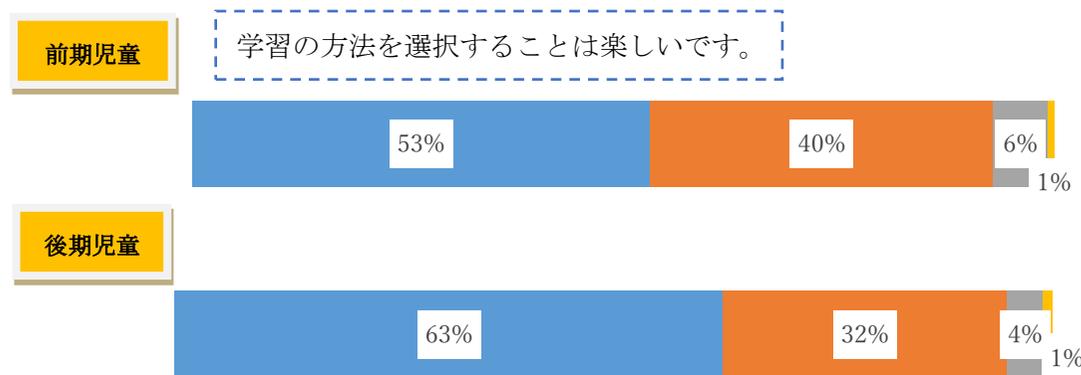
児童アンケート項目「自分から進んで学習しています。」の前期児童と後期児童の比較です。「そう思う」と回答した児童の割合は前期よりも増加しています。「大体そう思う」と合わせると、8割以上が自分から進んで学習に取り組んでいることが分かります。

この結果を次年度以降も維持し、少しでも多くの児童が進んで学習に取り組むように教職員全体で取り組んでいきます。児童が「学びたいな」「調べたいな」と思うような問題提起や授業展開を心がけていこうと思います。



後期に入り、低学年でも授業中にタブレット端末を使用して学習する機会が増えてきました。児童は前期同様に疑問に思ったことや分からないことを、タブレット端末を活用して調べる様子が見られます。また、クラウド環境を活用して友だちと意見や考えを共有したり、友達の意見や考えを参考にしたりすることで自分の考えを深め、広げることに役立っています。それに加えて、1つのものをグループで同時に作業することもできています。

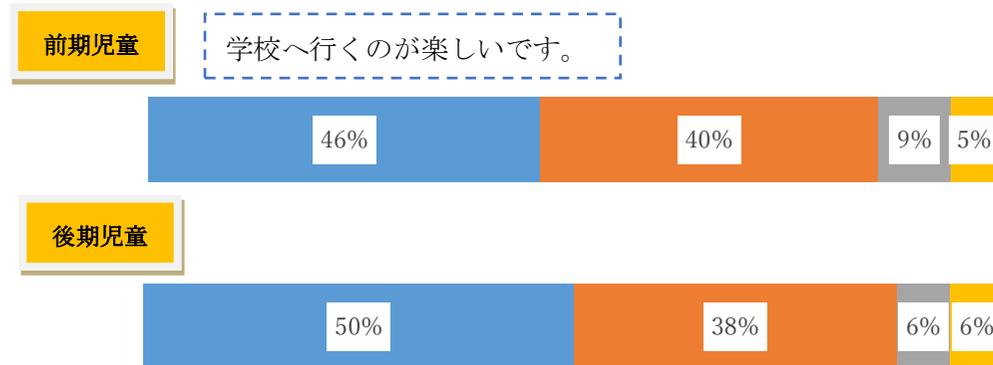
前期アンケート実施時期の6月から後期アンケート実施時期の12月までにたくさんタブレット端末を活用してきた結果だと思います。この結果からもタブレット端末は学習とは切り離せないものとして確立してきたことが分かります。しかし、「役に立たない」と回答した児童が6%から9%に増加しています。児童の声には「タブレットを活用したからといって授業の内容が分かるようになったわけではない」というものがあります。教職員は授業での活用方法や児童が授業で使う場面について考えていこうと思います。



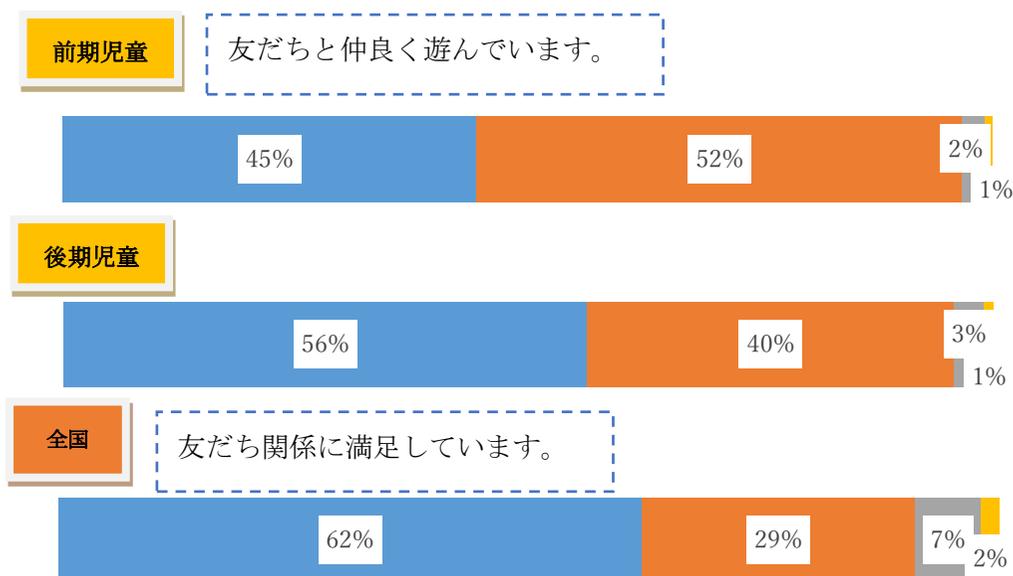
前期でも述べたように児童は自分に合った学習方法を選択して、学習に向き合うようになってきています。本校の高学年では授業によって、「ノートに書く」場面と「タブレットで入力する」場面を選択することも多くなってきています。また、問いに対して一人で問題解決に向かう「おひとりさまコース」、友だちと考えを出し合いながら問題解決に向かう「友だちコース」、授業者と問題解決に向かう「先生コース」を選択して学習することがあります。児童の様子を見ていると自分が選択したコースで学習する時の方が粘り強く、最後まで学習しようとする姿が多いように思います。そのことが「そう思う」の割合が前期よりも10%も増加したことにつながっていると思います。

2 「豊かな心」の育成に向けて

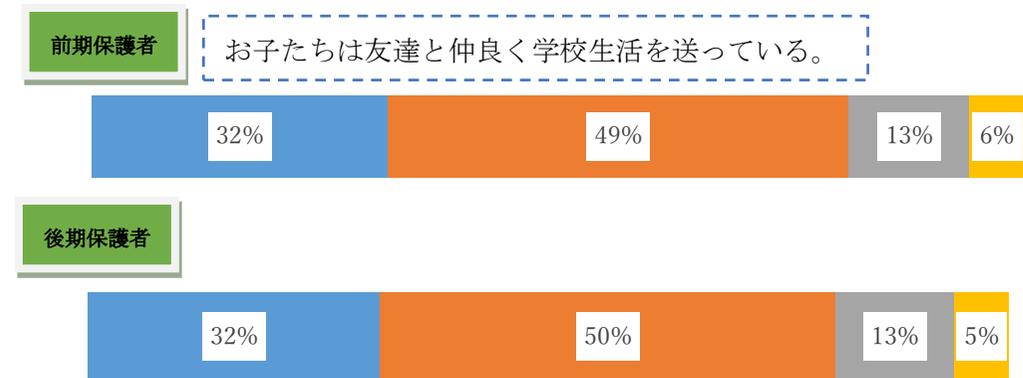
豊かな心の育成のためには、学級や学年の枠をこえて、支えあい、高め合う集団作りが大切です。そのため、本年度は参観していただいたように、運動会にたてわり種目を導入したり、ハロウィンやクリスマスなどの行事にたてわり遊びをしたりすることで、集団の力はもちろん、個の力を伸ばしていこうと取り組んできました。子どもたちがどのような思いで日々の学校生活を過ごしているかを把握し、豊かな心の育成を目指していきたいと思ひます。



「学校へ行くのが楽しいです」の前期児童と後期児童の比較です。「そう思う」の割合が4%増加していることは嬉しい結果です。しかし、依然として「学校へ行くのが楽しい」と感じていない児童もいます。どのような部分で「楽しくない」と感じているのかを把握し、改善できるところは学校全体で働きかけていきたいと思ひます。

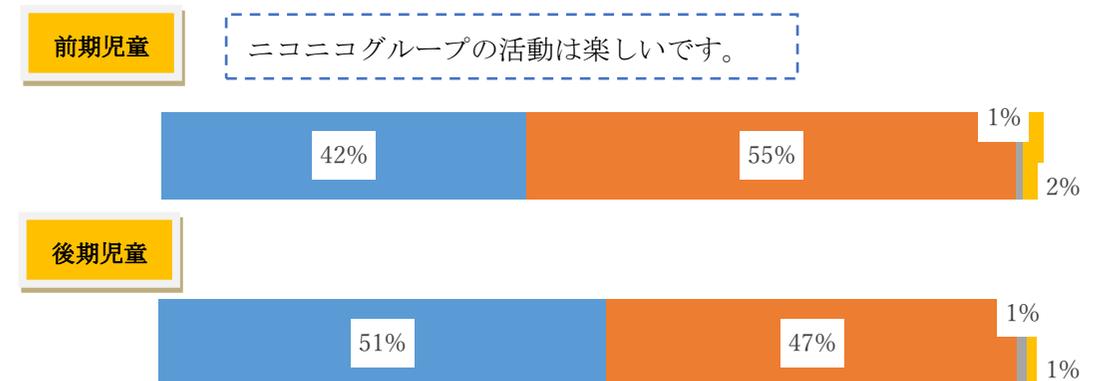


児童アンケート項目「友だちと仲良く遊んでいます。」の結果を見ると9割以上の児童が友だちと仲良く遊んでいると回答しています。特に「そう思う」の割合は前期と比較10%以上増加しています。とても嬉しい結果です。また、全国の結果と比較しても「そう思う」「大体そう思う」の割合の合計が本校の方が高いことは嬉しいことです。



保護者アンケート項目「お子たちは友だちと仲良く学校生活を送っている。」の結果を見ると前期同様8割以上の保護者の方が友だちと仲良く学校生活を送っていると回答しています。

しかし、1つ前の児童アンケート項目「友だちと仲良く遊んでいます。」と比較すると「仲良く遊んでいない」と答えた割合が多くなっています。それは、学校の中で大小に関わらず、日々起こるトラブルに対して保護者の皆様が児童としっかりとコミュニケーションを図り、学校での出来事を児童から聞く機会をしっかりと設けてくださっているからではないでしょうか。教職員としてもこの数値をしっかりと受け止め、児童が家庭で「今日も楽しかったよ」と保護者の皆様に伝えられるように努めていきます。



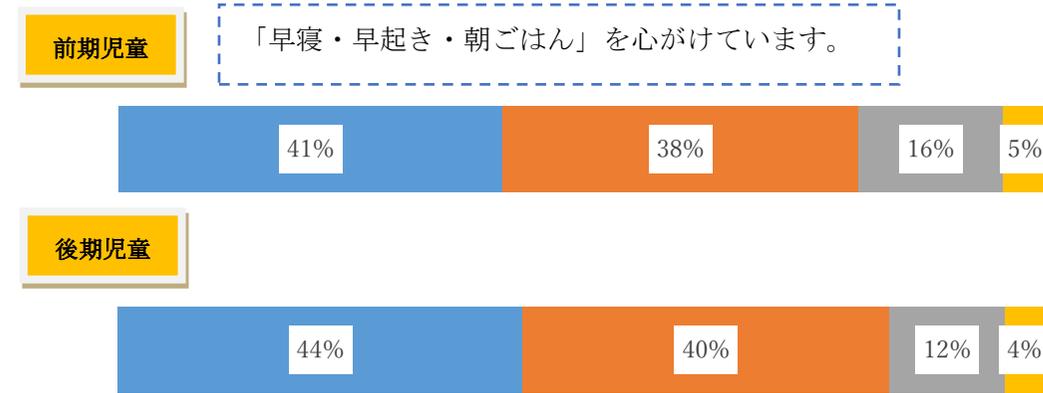
本校はすべての学年が単級のため、人間関係が固執しやすく、他学級との交流の機会がありません。そのため、縦割り活動を通じて多くの経験や体験を児童にしてほしいと考えています。そのような考えから、昨年度以上に力を入れてきたが「たてわり活動」です。

児童アンケート項目「ニコニコグループの活動は楽しいです。」の回答結果をみると、前期も97%の児童がたてわり活動を楽しんでいると感じていました。後期も98%の児童が楽しいと感じています。特に「そう思う」の割合は前期の42%から51%へと大幅に増加しました。学校としても様々な場面でたてわり活動を組み込むことはできないかと試行錯誤しながら取り組んできました。

これからもたてわり活動をもっともっと充実させ、お互いに思いやる気持ちや、敬う気持ちを育んでいけたらと思ひます。

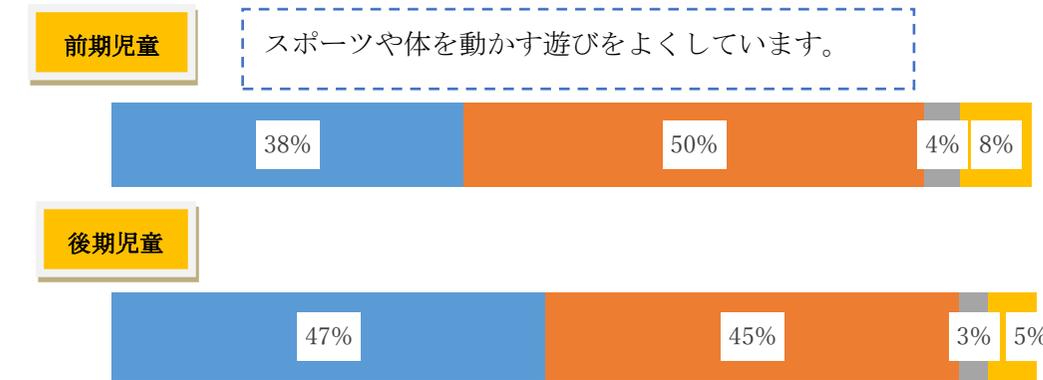
3 「健やかな体」の育成に向けて

健やかな体の育成のためには学校や家庭、地域が協力して子どもたちに呼びかけていくことが大切です。そのためには規範意識をもち、規則正しい生活をするのが必須になると考えます。学校や家庭での子どもたちの様子を正確に把握し、健やかな体の成長を目指していきたいと思ひます。



児童アンケート項目『「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけています。』の結果を見ると、8割以上の児童が早寝・早起き・朝ごはんを心がけていると回答しました。前期と比較をしても「そう思う」「大体そう思う」の両項目とも増加しています。

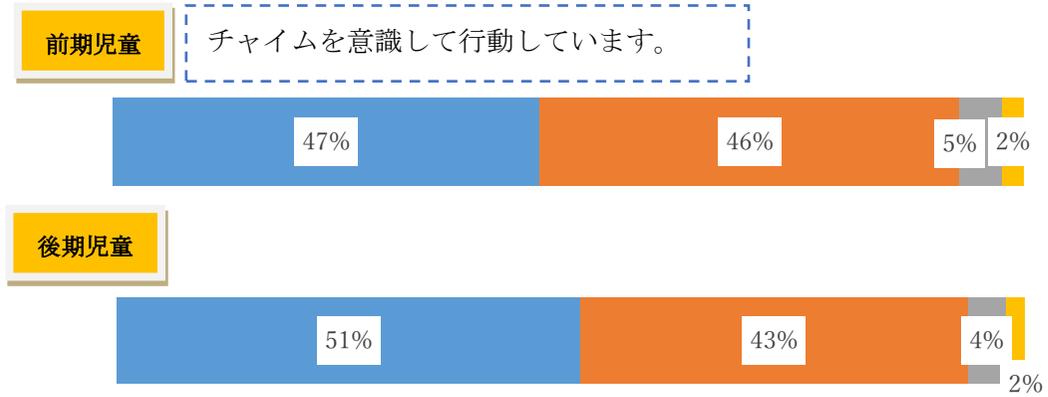
食事は体の活動スイッチを入れるのにとっても大切です。高学年は家庭科の授業で朝食の役割や大切さを学習しました。引き続き、学校と家庭が協力して呼びかけていけたらと思ひます。



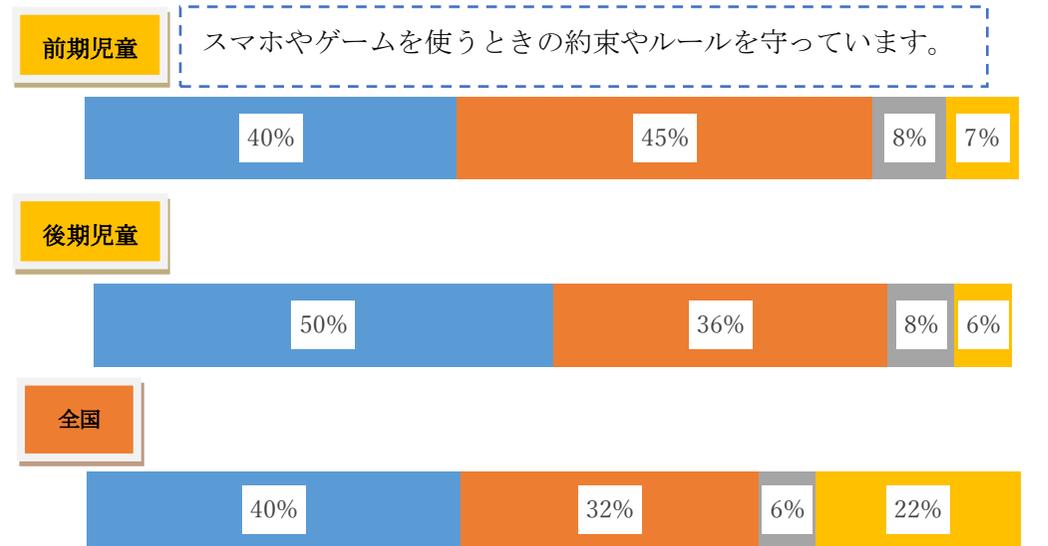
児童アンケート項目「スポーツや体を動かす遊びをよくしています。」では、前期と比較して「そう思う」の割合が大きく増加しています。本校児童の様子を見てみると、気温が低くなる時期もこれまでと変わらずに、多くの児童が運動場で遊んでいます。また、児童同士で「外に行こう」や「〇〇して遊ぼう」という声が多数聞かれます。

1月に全校で取り組んだ5分間マラソン「かけ足タイム」の様子を見ていても、児童は自分のペースで止まることなく走り続けていました。運動することが好きな児童が本当に多いのだと改めて気づかされました。

4 その他



本年度、時間を守ることを大切にしたいという思いから、チャイムの回数を増やしています。3学期からは朝読書が始まる5分前にチャイムを鳴らしています。運動場で遊んでいる児童もチャイムで教室に戻り、時間通りに朝読書を始められています。児童アンケート項目「チャイムを意識して行動しています。」からも多くの児童はチャイムを意識して行動していることが伺えます。全校児童が時刻や時間を守る意識を今後も高めていけたらと思ひます。



児童アンケート項目「スマホやゲームを使うときの約束やルールお守っています。」の前期と後期、全国との比較です。「そう思う」「大体そう思う」を合計すると大きな差はありません。しかし、学習でタブレット端末を使用する機会が増えると同時に端末を使う時のルールや約束について学習することも多くなります。その結果が後期の「そう思う」の割合が10%も増加したことにつながっているのではないのでしょうか。また、全国との比較でも本校児童は約束やきまりを守り、タブレット端末を活用していることが分かります。

保護者の皆様、アンケートへのご協力ありがとうございました。